

霞クラウドファンディング

「被爆者スライド標本データベース」を公開しました

杉原 清香 原爆放射線医科学研究所 附属被ばく資料調査解析部 助教

原爆放射線医科学研究所（原医研）では、2020年7月～9月にクラウドファンディング『原爆被爆者の記録を後世へ：標本データベース化プロジェクト』を行い、全国の皆様から温かい応援と多大なるご支援をいただきました。

2022年5月、ご支援いただいた資金により作成を進めてまいりました「被爆者スライド標本データベース」を、webサイト（<https://rbm.hiroshima-u.ac.jp/>）にて一般公開いたしました。

このデータベースは、1973年に米軍病理学研究所（AFIP: The Armed Forces Institute of Pathology）から返還され、現在は原医研に保管されている資料のうち、「被爆初期例」とされている被爆者のスライド標本を最新の技術を用いてデジタル化し、個人情報を除いたうえで、その代表的な画像と医学記録、性別や年齢、被爆状況などの情報をまとめ、解説を加えたものです。年齢、被爆距離（爆心地からの距離）、被爆場所などから検索ができ、また地図上で被爆地点のマークを選択することでデータの閲覧ができます。原爆が人類に及ぼした「負の遺産」を後世に引き継ぐ科学的資料として、多くの方々に原爆の影響や被爆の実態をお伝えすることを目的としています。

今後も少しずつ情報を追加し、データベースのさらなる充実を図ってまいります。多くの皆様にご利用いただけることを願っております。



公開中の「被爆者スライド標本データベース」



AFIP 返還資料のスライド標本